

一等航空整備士という職業

奥田 佳三

仕事の具体的な内容



航空整備士とは

大きく分けて、ライン整備（毎日運航している飛行機の点検と整備）と、ドック整備（自動車と言えば車検、法律で決まった年月が経過すると格納庫で長時間をかけて各システムの点検や整備をする）、そしてエンジンや無線機など部品の整備等の現場部門、技術管理、生産管理、教育訓練などの管理部門があります。

私はライン整備部門で、伊丹、羽田、関西空港などで皆さんが利用される飛行機を、1便毎に到着後、故障があればパイロットから報告されたり、コンピューターにモニターされる各システムの状態を確認し、飛行機の外観確認を実施して不具合があれば、出発までに修理をしたりする業務の中で主に電気、電子系統の仕事が中心でした。ボーイング747-400型機（約20数年前に開発されたデジタルコンピューター搭載のジャンボ機）以降の新型の場合、フライト中に不具合が発生すると、自動的にリアルタイムで、地上の整備部門のコンピューターに人工衛星を経由して不具合システムの状況を送信出来る為、正確な情報をもとに、早く故障修理が出来るようになりました。

仕事の面白さ、やりがい、喜びなど

ジャンボ機を3機、アメリカのボーイング社で製造後のテストフライトを整備として実施しました。新しい飛行機を購入する場合、5時間程空を飛びながら、操縦室の計器、無線機、操縦装置、エンジンなどパイロットとペアで各システムの正常作動をテスト確認するテストフライトと呼ばれる仕事は通常の飛行では経験できない、各システムの設計の飛行性能限界を確認出来る面白さがあります。

航空会社は公共交通機関として定時性、安全性、快適性、経済性が要求され、時刻表通り定時出発率を維持する義務が課せられています。機材の不具合が報告されてから、苦勞して不具合箇所を見付け、次の便の出発時間までに、短時間で何とか修復出来て、多くのお客様に安全な機材を提供し、御迷惑をおかけしない事でやりがいを感じます。

海外に仕事で行ける事、これは英語が必要になりますが、飛行機も英語も好きであると、海外出張や駐在はお休みの日は観光を楽しめます、但し、言葉が通じても、日本での常識が通じない事など、場合によって苦勞する事もあります。

業界の説明



航空業界は航空会社、管制官、関空など空港会社などがあります。航空会社にはパイロット、キャビンアテンダント、整備、営業、貨物の部門があり、私は整備部門に所属し、主に自動操縦装置、航空無線機、客室の音楽やビデオサービスの電気系統の整備（avionics = aviation electronics）を入社当時は担当、その後、世界の航空業界の過当競争と規制緩和により、業務分野は拡大し、エンジンや油圧システムを含む、飛行機全体を整備するようになりました。航空技術の進歩と共に、丈夫で長持ちする安全な航空機になり、航空券も以前に比べると安くなり、人件費も伸び悩みの状況で、最近では、格安航空会社が作られ、グループ会社で業務を分担する方向になりました。

円高がこれだけ進むと、人件費や空港着陸料など、海外航空会社に対して日本は不利で、競争力が低下します。さらなるリスラの進行などが必要になると、日本の航空会社は大変な努力をしています。

仕事に就く為の心構え



安全運航が第一で、事故は会社の存亡にかかわり、尊い命を無くすような事は、取り返しがつかないので、絶対にあってはいけないのです。それで、仕事中は気を抜く事は許されません。自分が点検整備し確認サインした飛行機は全責任を負うことになります。それだけ厳しくもあり、逆にやりがいの有る仕事です。どんな仕事も同じですが、外から見ると華やかに見えるかも知れませんが、確かにそういう面も有りますが、中に入って実際に仕事をすると、非常に地味で厳しいと思います。飛行機が好きで好きでしようがないと思わないと、長い間続かないと考えた方が無難だと思います。

職業選択のきっかけ



子どものころ父親が戦争で戦闘機の整備をしていた話を聞いたり、バイクのエンジンを分解修理していたのを見たりした事が子ども心に残っていたのか、大学時代電気工学を専攻し、友人に航空会社の入社試験に誘われたことがキッカケでした。3人の子どもがいますが、1人は空港旅客サービスの仕事、2人は自動車整備の仕事と、同じような業界で仕事をしています。

仕事に関して生徒さんに有用な情報

中日本航空専門学校、日本航空専門学校などの航空機整備（二等航空整備士、航空運航整備士まで）の資格取得を専門にした学校、パイロットを養成目的にした航空大学校などがあります。航空会社ですぐ役に立つ国家試験を目標にした学校以外にも、一般の

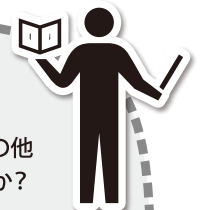
大学、高校を出て、航空会社に入ってから国家試験を取得する制度も有りますが、時代と共に制度も変わりますので、確認が必要です。

一等航空整備士（一等は航空会社に入社後）の場合、航空法から、エンジン、流体力学、電気、航空機材料、航空機システム、そして基本工作作業、など幅広く、内容も豊富です。最初の国家試験に合格するまで5年程かかりますが、最後の1年は、通勤時間や風呂にも、資料を片手に、家族との会話をする時間も少なくなります。それでも自分が好きで選んだ仕事をやりぬく強い精神力、体力が必要です。

また科学技術は日進月歩で毎日と言って良いほど、新しい技術情報が入って来ます。それらを消化習得して日々の業務に生かす努力をしています。

最後に、大きな会社になると、転勤もあり、環境の変化が常にあります。人間関係も複雑です。色々な経歴、性格、個性豊かな人達とで、人の命を預かる仕事をするわけですから、職場のチームワークが大事です。この仕事を選んで良かった、と言えるように自分に合った仕事を良く考えて進んで頂きたいと思います。

Navi委員会からの質問



Q1. 高校時代は文系、理系、その他の課程に属していましたか？

A1. 理系でした。

Q2. その職業に就くことを決意したのはいつですか？

A2. 大学での就職決定の時でした。